

11月の主な行事



1日	紅茶の日、計量記念日	15日	七五三、かまぼこの日
3日	文化の日	17日	将棋の日
7日	立冬	19日	鉄道電化の日
9日	119番の日、換気の日	23日	勤労感謝の日
11日	電池の日、靴下の日	28日	税関記念日



今月のかわら版 : 1 「家庭でできる防火対策」

これから冬になるにつれ、空気が乾燥し、火災発生の確率が高まりますが、対策として、日頃から防火意識を持って火の用心を心掛けることが大切です。

総務省消防庁のまとめによると、住宅火災の出火原因の約4分の1は、**キッチン**の**ガスコンロ**です(特に「揚げ物」をしている時の油火災)。油に火が着くと突然激しく燃え上がりますが、慌てずに的確かつ素早い消火を心がけてください。
 ○キッチンに、「泡消火器」(出来れば2本)準備しておくとう安心です。また、使い方も熟知しておきましょう。火の付いた油に対してまともに消火剤を噴射すると、油が飛び散って火の勢いを強くしたり、周囲に火が広がったりすることがあります。噴射の際は、少し離れた場所(約2メートル)から、泡が火の上に降り注ぐようにし、燃えている油を消火剤で覆うようにすることがコツです。
 ○消火器が使えない場合は、シーツを水で濡らして固くしぼり、それで燃えている鍋やフライパン全体を覆うことで火を消すことができます。その際、ガスコンロの火もシーツの上から元栓を締めて消すことが重要です。

ガスコンロの次に多い出火原因は、**タバコの火の不始末と放火**です。
 ○タバコの始末は確実に。灰皿の中の消し忘れ等、十分注意しましょう。
 ○放火は防げないとあきらめず、家の周囲に燃えやすいものを置かないことが肝心です。ゴミ袋も夜のうちにゴミ捨て場に出すのはやめましょう。
 冬の火災は、**暖房器具からの出火**が多いことも特徴です。
 ○ストーブ、こたつの消し忘れにはくれぐれも注意しましょう。
 ○石油ストーブの場合は、必ずいったん火を止めてから給油してください。
 ○古くなった暖房器具は、部品の劣化等が火災の原因となる場合があります。手入れをこまめにし、部品の傷みに気付いたらすぐに修理するか、買い替えを考えましょう。
 すべての火災は、**初起消火が肝心**です。燃え広がると、手がつけられなくなります。特に地震災害のときなどは、消防車の到着を期待することはできません。
 ○小さな火のうちに自分で消火するように心掛けましょう。
 ○地域防災の観点から、地域の住民同士が万一の場合に共同して消火に当たれるよう、日頃から助け合いの精神を育てておくことも大切です。

今月のかわら版 : 2 「国連持続可能な開発会議(リオ+20)が開催」

今年の夏も、連日連夜、各地で猛暑日・熱帯夜が続ぎ、熱中症による被害も相継ぎました。このような温暖化現象はわが国一国で対処できる問題ではなく、世界的なレベルで取り組む必要があります。このような世界的な環境問題に対処するため、今年の8月20日～22日(リオ+20)のリオ+20で、国連持続可能な開発会議(リオ+20)が開催されました。本稿では、この「リオ+20」についてご紹介します。

1992年、国連環境開発会議(地球サミット)がリオ+20で開催。環境と開発に関する宣言やその具体化のための行動計画が採択され、気候変動枠組条約や生物多様性条約の締結へと繋がりました。それから20年経過し、本会議は同会議のフォローアップ会合として開催されました。「リオ+20」の略称がここに由来します。
 本会議には国連加盟188か国等の首脳・閣僚をはじめとした政府関係者、地方自治体、国際機関、企業、市民社会から約3万人が参加し、持続可能な開発の達成と貧困撲滅のために、経済成長と環境保全を両立させる「グリーン経済をどのように構築するのか、持続可能な開発に向けた国際的協調体制をどう改善するのか」が協議されました。会議で合意された内容は右記の通りです。

外務省は、「グリーン経済に向けた取組の推進」「持続可能な開発を推進するための制度的枠組み」「防災や未来型のまちづくり」など日本にとっても関心の高い分野の取組が議論され、今後の国際的取組を進展させる上で重要な成果が得られたとしています。
 (ア)グリーン経済は持続可能な開発を達成する上で重要なツールであり、それを追求する国による共通の取組として認識すること
 (イ)持続可能な開発に関するレベル・フォーラムの創設等
 (ウ)都市、防災を始めとする28の分野別取組についての合意
 (エ)持続可能な開発目標について政府間交渉のプラットフォームの立ち上げ
 (オ)持続可能な開発ファイナンス戦略に関する報告書の2014年までの作成



10月にはインドのニューデリーで、生物多様性条約締約国会議(COP11)が開催され「私たちが自然を守れば、自然も私たちを守ってくれる」というメッセージのもとで生物多様性保全が協議されます。地球の未来を守るためには、世界各国が一体となって環境問題に取り組む必要があります。そのために、「リオ+20」「COP11」などの国際会議で各国の英知を集めて対策が議論されますが、温暖化が急速に進んでいる中で、わが国だけでもできること、そして我々個人でもできることをひとつずつ確実にやっていくことが必要ではないでしょうか。